

## 私の家族

二年 吉田千咲

私の家には一匹の犬がいます。犬種はシーズーで、白とグレーの毛色をしています。舌が常に口の外に出ているから「ペロ」という名前が付きましました。ペロはとても人懐っこくて、初めて会う人にも興味津々に近づいていきます。よく誰かの手を舐めてベトベトにしてしまうので、母に怒られています。怒られた時はすごく落ち込んでいるのですが、数分後にはまた誰かの手がベトベトに。

「お母さん、犯人はこの犬です。」

今ではすっかり我が家に溶け込んだペロですが、家に来たばかりの時は、全く心を開いてくれませんでした。

ペロは7年前、保護犬活動をしている人のところからやってきました。私が六歳の時のことですが、ペロが初めて家に来た時のことは、今も覚えています。ペロは部屋の隅の方でうずくまっていた。ご飯をあげても全然食べなかつたので、とても心配でした。でも、少しずつ私たちに近づいてきてくれて、ご飯も全部食べてくれるようになりました。時間はかかったけれど、一歩一歩ペロと仲良くなれた気がして、毎日ペロと顔を合わせるのが楽しみでした。ペロが家に来て数日経った頃、初めてペロを膝の上

にのせてみました。その時の私は、まだ犬を抱っこしたことなんて一度もなかつたから、わくわくしていたし、どきどきもしました。そして、

「わあ。」

すごくモフモフで、あつたかくて、少し重くて、初めて抱っこできてとてもうれしくて。幸せで胸がいっぱいでした。ペロとは、その日からグッと距離が縮まった気がします。

名前を呼んだら反応してくれた時、ぬいぐるみでいっしょに遊んだ時、いっしょに昼寝した時、どの瞬間も全部私の思い出として今もはっきり残っています。いつの間にかペロがすぐ側にいる生活が当たり前になっていました。今では居間の真ん中で、お腹を思いつきり出して寝っ転がっているペロが日常風景です。そんなペロは今年で十四歳になります。私と同じ年ですが、人間の年齢にすると、なんともう七十歳後半だそうです。もうすっかりおじいちゃんになってしまいました。まだまだ元気な過ぎるほしいです。

今日もペロは、お腹を出して寝ています。そんなペロが、私は大好きです。